

四 俘虜・抑留者取扱方針

46

昭和17年1月13日

西外務次官より
木村(兵太郎)陸軍次官、沢本(頼雄)海軍次官、上村(幹男)俘虜情報局長官宛

英国政府等のジュネーブ条約遵守に関する照

会につき通報

條三普通合第五二號

昭和十七年一月十三日

外務次官 西 春彦

陸軍次官 木村 兵太郎殿

海軍次官 澤本 頼雄殿

俘虜情報局長官 上村幹男殿

「イギリス」、「カナダ」、「オーストラリア」及「ニュー

ジーランド」各政府ノ千九百二十九年七月二十七日ノ

俘虜ノ待遇ニ關スル國際條約條項遵守ノ聲明ニ關スル

件

本件ニ關シ在京「アルゼンティン」國代理大使ヨリ別紙寫

ノ通申越シタルニ付右茲ニ送付ス貴見何分ノ儀至急御回示

相成度シ

本信送付先 陸軍次官、海軍次官、俘虜情報局長官

(別紙一)

「イギリス」、「カナダ」、「オーストラリア」及「ニュー

ジーランド」各政府ノ千九百二十九年七月二十八日ノ

國際條約條項遵守ニ關スル千九百四十二年一月三日附

東郷外務大臣宛在京「アルゼンチン」國代理大使書翰

假譯

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ「イギリ

ス」、「カナダ」、「オーストラリア」及「ニュージーランド」

各政府ガ日本ニ對シ千九百二十九年七月二十七日「ジュネー

ブ」ニ於テ署名セラレタル俘虜ノ待遇ニ關スル國際條約ノ

條項ヲ遵守スルコトヲ聲明セル旨貴大臣ニ對シ御通報申上

グルノ光榮ヲ有シ候

尙本使ハ貴大臣ヲ介シテ日本帝國政府ガ同様ノ聲明ヲ行フ

意嚮アリヤ否ヤニ付御質問申上グル様本國政府ヨリ訓令ニ接シ候

本件ニ關スル貴大臣ノ御配慮ニ對シ豫メ深謝スルト共ニ茲ニ本使ハ閣下ニ向ツテ深甚ノ敬意ヲ表シ候

(別紙二)

東郷外務大臣宛千九百四十二年一月三日附在京「アルゼンチン」國代理大使書翰ニ關スル千九百四十二年一月五日附外務大臣宛同大使假譯

(書翰文カ)

以書翰啓上致候陳者千九百一十九年七月二十七日「ジュネーブ」ニ於テ署名セラレタル俘虜ノ待遇ニ關スル國際條約ノ條項ヲ「イギリス」、「カナダ」、「オーストラリア」及「ニュージーランド」各政府カ日本ニ對シ遵守スルノ件ニ關シ本月三日附貴大臣宛拙翰ニ關シ「イギリス」政府ハ双方ノ俘虜ノ食糧及衣類ノ補給ニ關スル同條約第十一條及第十二條ノ適用ニ關シ俘虜ノ國民的、民族的習慣ヲ考慮スルコトヲ提案セル旨御通報申上グルノ光榮ヲ有シ候

本件通告ニ對スル貴大臣ノ御配慮ニ對シ豫メ深謝スルト共ニ茲ニ本使ハ閣下ニ向ツテ深甚ノ敬意ヲ奉シ候

敬具

編注一 本条約については『日本外交文書』昭和期I第二部第

二卷第464—484文書を参照。

編注二 別紙のうち原文(仏文)写しは省略した。

~~~~~

47

昭和17年1月13日

西外務次官より  
木村陸軍次官、沢本海軍次官、湯沢  
(三千男)内務次官宛

米國政府のジュネーブ条約遵守に関する照会

につき通報

條三普通合第五三號

昭和十七年一月十三日

外務次官 西 春彦

陸軍次官 木村 兵太郎殿

海軍次官 澤本 頼雄殿

内務次官 湯澤 三千男殿

千九百一十九年七月二十七日ノ俘虜ノ待遇ニ關スル國際條約及赤十字條約條項恪守ニ關シ米國政府申入傳達ニ關スル件

本件ニ關シ在京瑞西國公使ヨリ別紙寫ノ通申越シタルニ付  
右玆ニ送付ス貴見御回示相成度シ

本信送付先、陸軍次官、海軍次官、内務次官

(別紙)

千九百二十九年七月二十七日ノ俘虜ノ待遇ニ關スル國  
際條約及赤十字條約條項恪守ニ關スル米國政府申入ニ  
關スル千九百四十一年十二月二十七日附外務大臣宛在  
京瑞西國公使來翰假譯

以書翰啓上致候陳者本國政府ノ訓令ニ基キ本使ハ今般「ア  
メリカ」合衆國政府カ日本國政府ニ對シ左ノ通り傳達方希  
望シ居ル旨閣下ニ對シ御通報申上クルノ光榮ヲ有シ候

「アメリカ」合衆國政府ハ千九百二十九年七月二十七日  
壽府ニ於テ締結セラレタル俘虜條約竝ニ壽府赤十字條約  
ノ締約國トシテ右兩條約ノ各條項ヲ適用スルノ意思ヲ有  
シ、尙合衆國政府ハ壽府俘虜條約ヲ抑留セラルヘキ如何  
ナル敵國非戦闘員ニモ右條約ノ條項カ適用セラレ得ヘキ  
範圍ニ於テ適用スルノ意思ヲ有シ候

日本國政府ハ右兩條約ノ署名國ナルモ壽府俘虜條約ヲ批

准シ居ラサルヲ了解致居候  
然乍ラ合衆國政府ハ日本國政府カ右兩條約ノ條項ヲ敍上  
ノ意味ニ於テ相互的ニ適用セラレンコトヲ希望致候  
合衆國政府ハ本件ニ關シ日本國政府ノ意嚮表明ニ接シ度  
候

本件ニ關スル日本國政府ノ意嚮照會旁本使ハ玆ニ閣下ニ向  
テ深甚ナル敬意ヲ表シ候  
敬具

編 注 別紙のうち原文(仏文)写しは省略した。



48 昭和17年1月16日 西外務次官より  
木村陸軍次官、沢本海軍次官、  
徳川(囑順)日本赤十字社社長宛

南アフリカ政府のジュネーブ条約遵守に関する

照会につき通報

條三普通合第八五號

昭和十七年一月十六日

外務次官 西 春彦

陸軍次官 木村 兵太郎殿

海軍次官 澤本 頼雄殿

日本赤十字社社長 徳川 圀順殿

日本及南阿聯邦間ニ於ケル千九百二十九年ノ俘虜待遇

ニ關スル條約適用ニ關スル件

(編註)

本件ニ關シ在京瑞西國公使ヨリ別紙ノ通申越シタルヲ以テ  
右送付ス委細ハ別添同國公使來翰寫及同假譯文ニテ御知悉  
ノ上貴見何分ノ儀御回示相成度シ

(別紙)

東郷外務大臣宛在京瑞西國公使發一月十二日附來翰

(PF-71-cc)假譯

以書翰啓上致候陳者本使ハ今般本國政府ノ訓電ニ基キ左ノ  
如キ内容ノ南阿聯邦政府ヨリ日本帝國政府宛ノ通告文ヲ閣  
下ニ傳達スルノ光榮ヲ有シ候

南阿聯邦政府ハ千九百二十九年七月二十七日壽府ニ於テ  
締結セラレタル俘虜ノ待遇ニ關スル國際條約ノ規定ヲ日  
本ニ關スル限り遵守シ居レルニ付日本國政府ニ於テモ同  
様ノ處置ヲ執ルノ保證ヲ與ヘラレンコトヲ要請ス尙南阿  
聯邦政府ハ日本國政府ニ對シ食糧及衣服ニ關スル條約第  
十一條及第十二條ノ適用ニ當リテハ實際的簡便ノ理由ニ

依リ双方共俘虜ノ國民的及人種の習慣ヲ考慮ニ入ルベキ  
コトヲ茲ニ提議ス

本件南阿聯邦政府ノ提議ニ對スル日本帝國政府ノ見解御回  
報要請旁々本使ハ茲ニ閣下ニ對シ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬具

編注 別紙のうち原文(仏文)写しは省略した。

49 昭和17年1月20日

西外務次官より  
木村陸軍次官宛

俘虜情報に関する英国政府申出について

付記 昭和十七年十二月十五日付、条約局第二課作成

「議會資料 俘虜及抑留者ノ情報交換ニ關スル件」

條三普通第三八號

昭和十七年一月二十日

外務次官 西 春彦

陸軍次官 木村 兵太郎殿

俘虜情報ニ關シ英國政府申出ノ件

本件ニ關シ英側利益代表國タル「アルゼンティン」代理大

使ヨリ別紙ノ通通報アリタルヲ以テ委細右ニテ御了知相成度

尙當省ニ於テハ不取敢亞大使館ニ右通報了承ノ旨回答シ置キタルガ先方申入事項ノ二及末項ニ對シテハ昭和十六年十二月二十七日俘虜情報局設置セラレタルヲ以テ同情報局ヨリ供給アルヘキ英人、「ドミニオン」人及印度人タル俘虜及傷者ニ關スル情報ハ成ルベク速ニ利益保護國代表者又ハ國際赤十字委員會若ハ同代表者ヲ通シ遲帶ナク通知スヘキ旨回答シ併セテ貴省ニ於テ作成濟ミノ中間の情報ニテモ有之ラバ右附加致度ニ付何分ノ儀至急御回報賜ハリ度

(別紙)

俘虜情報ニ關シ英政府申出ヲ取次グ在京亞大使館來翰

一月十六日附(G.N.O.)假譯

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ貴大臣ニ對シ英國政府ハ英國軍ノ權内ニ在ル日本人俘虜ニ關スル情報ノ入手及傳達ニ關シ左ノ通り決定セル旨御通報申上クルノ光榮ヲ有シ候

一(イ)英軍ノ權内ニ在ル日本人俘虜ハ印度ニ送致ス

(ロ)印度政府ノ設置スル俘虜情報局ハ千九百二十九年七月二十七日壽府ニ於テ署名セラレタル俘虜ノ待遇ニ關スル國際條約第七十七條及同日署名セラレタル病者及傷者ニ關スル條約第四條ノ規定スル情報ヲ記錄シ且右情報ヲ東京ニ最モ便利ナル方法ニ依リ傳達シ得ル様日本國利益保護國代表者又ハ赤十字國際委員會地方代表者ニ供與スヘシ

ニ英國及ドミニオン政府ハ日本帝國政府ガ英、ドミニオン及印度出身ノ俘虜及傷者ニ關シ同様ノ情報ヲ供與スヘキモノト思料スルヲ以テ右俘虜及傷者ニ關スル詳細ナル通報ヲ可及的速カニ供與サレンコトヲ期待ス

尙本使ハ日本帝國政府ニ對シスベテノ英、ドミニオン、及印度出身ノ俘虜、特ニ香港戰爭中俘虜トナリタルモノノ氏名表ヲ出來得ル限り速カニ御供與相願度此段本國政府ノ訓令ニ依リ要請仕り候

本使ハ茲ニ閣下ニ向ツテ重ネテ深甚ナル敬意ヲ表シ候

敬具

(付記)

議會資料

俘虜及抑留者ノ情報交換ニ關スル件

一七、一二、一五 條二

一、俘虜ノ情報交換ニ關スル條約規定

(イ)陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約(千九百七年海牙ニ於テ調印千九百十一年帝國政府ノ批准書ヲ寄託セリ)

同條約附屬書陸戰法規慣例ニ關スル規則第十四條ハ俘虜ノ情報ニ關スル規定ナリ

(ロ)俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約(本條約ハ帝國政府ニ於テ署名シタルモ批准シ居ラス。本條約ノ準用ニ關シテハ俘虜及抑留者ノ取扱ニ關スル條約關係議會資料参照)同條約第八條及第七十七條乃至第八十條ハ俘虜ノ情報交換ニ關スル規定ニシテ就中第七十九條ハ俘虜情報中央部ノ設立ニ關スル規定ナリ

二、俘虜及抑留者ノ情報交換ニ關スル帝國政府ト敵國間ノ取極

(イ)歐洲大戰勃發直後壽府ニ俘虜情報中央部ヲ設置シタル赤十字國際委員會ハ大東亞戰爭開戦ト共ニ十二月九日

附ヲ以テ外務大臣宛壽府ニ設立セラレタル俘虜情報中央部ヲ通シ交戰國ニ於ケル俘虜及抑留非戦闘員ニ關スル報道ノ蒐集及傳達ニ付帝國政府ノ意嚮ニ從ヒタシト提議シ來ルト共ニ右同一趣旨ノ提議ヲ英米其ノ他ノ關係國政府ニ對シテモ提議シタル旨ヲ通報シ來レリ  
右提議ニ對シ帝國政府ハ昭和十七年一月六日附ヲ以テ在壽府赤十字國際委員會委員長「マックス、ヒューバー」氏宛左ノ通告ヲ爲シタリ

「帝國政府ハ双互條件ニ同意スル交戰國ニ對シ情報交換ノ爲俘虜ニ關スル情報ヲ壽府俘虜情報中央部ニ通報ス但シ情報傳達ニ要スル電報料金ハ俘虜所屬國ノ負擔トス

抑留非戦闘員ニ關シテハ出來得ル限り俘虜ニ準スル情報ノ交換ヲナス」

三、敵國側ノ情報交換ニ關スル態度

俘虜及抑留者ノ情報交換ニ關スル赤十字國際委員會ノ提議ニ對シ米國政府ハ昭和十六年十二月二十八日附上記委員會ノ提議ヲ受諾スル旨ヲ通報シ英ハ昭和十七年一月二十六日附ヲ以テ英及英自治領カ孰レモ之ヲ受諾スル旨ヲ

蘭ハ一月二十七日附ヲ以テ其ノ受諾方ヲ通報シ來レリ  
四、情報交換ノ實施狀況

我方ハ前記情報交換ニ關スル取極ニ基キ俘虜及抑留者ニ  
對スル情報ヲ蒐集シ之カ傳達ヲ取計ヒ來リ殊ニ俘虜及抑  
留者ノ銘々票ヲ順次敵國側ニ送付シ又其ノ安否問合ニ對  
シ出來得ル限り調査回答ヲ與ヘ居レリ

又敵國中、英、米、加、濠等ヨリハ此等諸國ニ抑留セラ  
レ居ル邦人抑留者ノ名表ヲ赤十字國際委員會ヲ通シ我方  
ニ送付シ且我方ノ安否照會ニ對シ回答シ來レル外各交戰  
國ハ赤十字國際委員會ヲ通シ各國ニ於ケル抑留所狀況ノ  
視察報告ヲ通報スル等ノ措置ヲ講シ居レリ

~~~~~

50 昭和17年1月23日 木村陸軍次官より
西外務次官宛

ジュネーブ条約遵守に関する陸軍側見解について

付記一 昭和十七年一月二十五日付沢本海軍次官より西

外務次官宛公信官房第四一九号ノ二

ジュネーブ条約遵守に関する南アフリカ政府照

会に対する海軍側回答

二 昭和十七年二月十三日付沢本海軍次官より西外
務次官宛公信官房第七六八号ノ二

ジュネーブ条約遵守に関する米国政府照会に對
する海軍側回答

陸亞密第一八九號

俘虜ノ待遇ニ關スル英、米等各國政府ヨリノ照會ノ件

回答

昭和拾七年壹月廿參日

陸軍次官 木村 兵太郎〔印〕

外務次官 西 春彦殿

昭和十七年一月十三日附條三普通合第五二號、第五三號及

昭和十七年一月十六日附同第八五號ヲ以テ照會ニ係ル首題

ノ件ニ關スル當方ノ意見左記ノ通回答ス

左 記

一、第五二號ニ關シ

イ、壽府俘虜條約ハ御批准アラセラレサリシモノナルニ

鑑ミ右條約ノ遵守ヲ聲明シ得サルモ俘虜待遇上之ニ

準シテ措置スルコトニハ異存無キ旨通告スルニ止ム

ルヲ適當トスヘシ

ロ、俘虜ノ食糧及衣類ノ補給ニ關シテハ俘虜ノ國民的、民族的習慣ヲ適宜考慮スルコトニ異存ナシ

ニ、第五三號及第八五號ニ關シ

前項意見ニ準ス

(付記一)

官房第四一九號ノ二

昭和十七年一月二十五日

海軍次官(印)

外務次官殿

俘虜待遇ニ關スル條約適用ニ關スル件回答

條三普通合第八五號照會首題ノ件ニ關シテハ陸軍ノ監理ニ屬スルモノナル處海軍トシテ俘虜收容所ヘ引渡以前ニ於ケル之ガ待遇ニ關シテハ來趣ノ通條約ヲ適用スルコトニ異存無之

(付記二)

官房第七六八號ノ二

昭和十七年二月十三日

外務次官殿

海軍次官(印)

千九百二十九年七月二十七日ノ俘虜ノ待遇ニ關スル國際條約及赤十字條約條項恪守ニ關シ米國政府申入ニ關スル件回答

條三普通合第五三號照會ノ首題ノ件米國政府申入通り相互的ニ適用シ支障ナキ意見ニ有之候

~~~~~

51 昭和17年1月24日

東郷外務大臣より  
在中国重光大使、在滿州国梅津大使  
他宛

「抑留敵國人取扱要綱」の在中国及び在滿州  
国公館への送付について

付記 昭和十八年十二月、在敵国居留民関係事務室作

成、「外務大臣用議會議資料」より抜粋

国内における敵国人の取扱について

亞一合第四九號

昭和拾七年壹月廿四日

外務大臣 東郷 茂徳

在滿洲國特命全權大使 梅津 美治郎殿

在中華民國特命全權大使 重光 葵殿

(以下省略)

「抑留敵國人取扱要綱」送付ノ件

今般内務省ニ於テ作成セル「抑留敵國人取扱要綱」參考ト

シテ送付ス

本信送付先 滿大、南大、北大、在支各總領事(南京北京

ヲ除ク)及領事

滿大ヨリ關東州廳長官ニ轉達アリ度

(別 添)

抑留敵國人取扱要綱

一、 敵國人ノ抑留ハ戰時ニ於ケル非常防諜措置タルト共ニ

當該外國人ノ保護ヲ以テ本旨トス

二、 抑留者ニ對シテハ其ノ名譽ヲ尊重シ身體ノ保護ニ努ム

ルコト

三、 抑留者ニ對シテハ信教ノ自由ヲ認メ抑留所ニ於ケル宗

教の行爲ハ支障ナキ限り之ヲ許容スルコト

四、 抑留者ニ對シテハ其ノ習俗慣行ニ應ジ適正ナル處遇ヲ

爲シ抑留者相互ノ間ニ於テハ之ヲ平等ニ遇スルコト

五、 抑留ノ場所ハ警察署留置場等ヲ以テ之ニ充テルコトナ

ク抑留者ノ逃亡、不穩策動ヲ封絶スルト共ニ監視取締  
ニ便シ且又抑留者ノ保健衛生上好適ノモノヲ撰定スル  
コト

六、 抑留者僅少ノ府縣ニ在リテハ當該抑留者ノ居宅ニ於テ

抑留スルコト

七、 抑留所ニハ各所毎ニ責任者ヲ任命スルコト

八、 抑留ニ當リテハ豫メ身體及携帶品ノ檢索ヲ勵行スルコ

ト

九、 抑留所ニ於ケル監視ハ警察官吏ヲ以テ之ニ充ツルコト

十、 抑留所ニ於ケル秩序ノ維持及清潔整頓ノ保持ニ關シテ

ハ抑留者ニ對シ必要ナル指示ヲ與ヘ嚴ニ之ヲ遵奉セシ

ムルコト

十一、 抑留者ニ對シテハ常時嚴密ナル監視ニ努メ警察官吏ノ

指示ニ違背シ又ハ抑留場所ニ於ケル秩序ヲ紊ル等ノ所

爲アリタル者ニ就テハ必要ナル處分ヲ加エ得ルコト

十二、 抑留者ニ對シテハ原則トシテ其ノ外部トノ接觸ヲ遮斷

スルコト

十三、 抑留者ニ對スル接見、通信ハ已ムヲ得サルモノニ限り

之ヲ許容シ立會、檢閲ヲ爲スコト

前項接見ノ範圍ハ各抑留者ニ付其ノ家族、近親者及營業上必要ト認メラルル最小限ニ止ムルコト

四、抑留者ニ宛テタル郵便物ハ總テ抑留所責任者ニ於テ之ヲ受理シ檢閲ノ上差支ナシト認メルモノニ限り(或ハ差支アル部分ヲ切抜キタル後)之ヲ本人ニ交付スルコト

五、食料供給ニ關シテハ常ニ合理妥當ナル計畫ヲ準備シ齟齬ナキヲ期スルコト

六、抑留者ノ用フル衣類、寢具、椅子等ハ必要アル場合ハ從前本人使用ニ係ルモノヲ充當シ綿密ナル點檢ヲ實施シタル上其ノ携行ヲ許可スルコト

七、抑留後ニ於ケル搬出入ニ就テモ前項ニ準ジ取扱フコト日用品其ノ他物品ノ購入又ハ外部ヨリノ物品差入ニ關シテハ狀況ニ應ジテ檢査ノ上之ヲ許可スルコト

八、抑留者ハ之ヲ成ル可ク國籍別、男女別ニ從ヒテ居室ヲ異ニシ多數收容ノ場所ニ在リテハ抑留者中ヨリ組長等ヲ指名シ規律保持、清潔整頓等ノ責ニ任セシムルコト  
九、家事整理其ノ他必要ナル場合ニシテ特ニ事情已ムヲ得スト認メラレタルトキハ其ノ願出ニ依リ當該抑留者ノ

歸宅ヲ承認スルコト

二、抑留者ニ對シテハ抑留所以外ニ於テモ適宜運動ノ機會ヲ與ヘ本邦内發行ノ新聞雜誌ノ閱覽、**ラヂオ**ニ依ル國內放送ノ聴取其ノ他娛樂機關ノ設置等ハ之ヲ認容スルコト

三、抑留者ノ保健衛生ニ注意シ多數收容ノ場所ニ在リテハ隨時健康診斷ヲ施行スルコト

抑留者ノ身廻品ノ洗濯等ハ自己ノ負擔ニ於テ外部業者ニ依頼スル等ノ自由ヲ拘束セサルコト

四、健康異狀者アリタルトキハ他ト處遇ヲ異ニシ衣類、寢具、食餌及醫療ニ付特ニ便宜ヲ與ヘルコト

五、傷病者ニシテ其ノ症狀ニ依リ入院又ハ自宅治療ヲ必要トスルトキハ本省ニ連絡ノ上其ノ抑留ヲ解除スルコト

六、抑留者名簿ヲ常備シ置キ抑留者ノ異動ニ隨ヒ其ノ都度加除訂正スルコト

抑留者ノ異動ニ關シテハ爾今國籍、住所、職業、氏名、年齡、性別異動事由ヲ具シ一ヶ月分ヲ取纏メ翌月十日必着ヲ期シ報告スルコト

七、抑留ニ伴ヒ沒收又ハ領直シタル物件ニ就テハ目錄ヲ作

成シ置クコト

二五、抑留日誌ヲ作成シ一般の抑留狀況ニ關シ記入シ置クコト

二六、抑留所ノ變更ニ關シテハ之ヲ報告スルコト

抑留所責任者ノ異動ニ就テモ亦同ジ

二七、抑留者中傷病者アリタルトキハ其ノ症狀ヲ具シ本省宛速報スルコト其ノ轉歸ニ關シテモ亦之ヲ報告スルコト

二八、傷病者ニシテ情況急迫ノ爲本省ニ連絡ノ遅ナクシテ其ノ抑留ヲ解除シタルトキハ事後報告スルコト

二九、抑留ノ事由解消シ又ハ其ノ惧ナキニ至リタルトキハ之ヲ解除スルヲ妨ゲザルコト

前項ノ場合ニ於テハ豫メ本省ニ報告協議スルコト

### (付記)

帝國內ニ於ケル敵國人ノ取扱

戰爭ニ伴ヒ敵國人中左ニ該當スル者ハ檢舉抑留セラレタリ

一、檢舉セラレタル者

被疑者ニシテ檢舉スヘキ容疑事實ノ充分ナル者

二、抑留サレタル者

(一) 敵國ノ軍籍ニ在ル者

(二) 船員及航空機乗員

(三) 十八歳以上四十五歳迄ノ男子

(四) 特殊技能者

(五) 前記以外ノ外諜容疑者

(六) 帝國民ノ戰意又ハ團結ヲ紊ス虞アル者

(七) 生活困難者

右以外ノ敵國人ニ對シテハ非抑留ノ儘充分ナル保護ヲ加ヘラレ居レリ

非抑留敵國人ニ關スル事項ハ一般外國人ニ關スル事項ト共ニ政務局ニ於テ取扱ヒ抑留敵國人ニ關スル事項ハ俘虜ニ關スル事項ト共ニ在敵國居留民關係事務室ニ於テ取扱フ

抑留ハ戰時非常防諜ト敵國人ノ保護トヲ主眼トシ其名譽ヲ尊重シ身體ノ保護ヲ計リ信教ノ自由ヲ認メ習俗慣行ヲ考慮シテ處遇保健上ニ留意シテ之ヲ行ヒ居レルカ敵國側ハ我措置待遇ニ對シ事毎ニ歪曲セル觀點ヨリ抗議シ來ル有様ナルモ其都度關係當局ニ連絡ノ上我方ノ真相ヲ舉ケテ反駁回答シ居レリ

抑留當局ノ中央官廳ハ内地及南洋廳、朝鮮(臺灣ニ抑留者

ナシ)ハ内務省、關東州ハ大東亞省ニシテ帝國外ニ於テハ支那占據地帶ニ於ケル集團生活者ハ大東亞省同地帶及南方占領地ニ於ケル抑留者ハ陸軍省俘虜管理部ノ所管ナリトス敵國人ノ財産乃チ敵産ノ管理處分ニ關スル事務ハ大藏省所管ナルカ本省ニ於ケル之カ連絡ハ戰時經濟局第一課之ニ當ル



52

昭和17年2月13日

東郷外務大臣より  
在スペイン須磨(弥吉郎)公使宛(電報)

### 敵国政府に対しジュネーブ条約準用方回答に

ついで

付記一

昭和十七年一月二十九日付東郷外務大臣より在

本邦ゴルジュスイス公使宛公信条三普通第二二号

米國政府に対しジュネーブ条約準用方回答

二

昭和十七年一月二十九日付東郷外務大臣より在

本邦ヴィリヤアルゼンチン臨時代理大使宛公

信条三普通第五号

英国、カナダ、オーストラリア及びニュージー

ランド各政府に対しジュネーブ条約準用方回答

### 第六四號

本省 2月13日後7時発

今回俘虜及抑留非戦闘員(civilian internees aliens)ニ對シ一九二九年ノ俘虜條約ヲ相互ニ適用シタキ旨敵國政府ヨリ申入アリタルヲ以テ帝國政府ハ利益代表國及壽府赤十字國際委員會ヲ通シ左ノ通態度ヲ表明シ置キタルニ付我方利益代表タル貴任國政府ニ右通報シ置アリ度シ

一日本國政府ハ一九二九年七月二十七日ノ壽府俘虜條約ヲ批准シ居ラス從テ何等同條約ノ拘束ヲ受ケサルモ日本ノ權内ニ入レル敵國俘虜ニ對シ同條約ノ規定ヲ準用スヘシ  
(apply mutatis mutandis)

二抑留非戦闘員ニ對シテハ能フ限り且相互條件ノ下ニ右條約ノ規定ヲ準用スヘシ但シ交戰國相互ニ本人ノ自由意志

ニ反シ勞役ヲ課セサルコトヲ條件トス

本大臣ノ訓令トシテ端典ニ轉電アリタシ

(付記一)

條三普通第二二號

以書翰啓上致候陳者一月二十日附拙信條三普通第一一號ニ

關シ日本帝國政府ノ見解左ノ通通報致候條右可然米國政府ニ御傳達相成度此段御依頼申上候

一、日本帝國政府ハ千九百二十九年七月二十七日ノ壽府赤字條約ノ締約國トシテ同條約ヲ嚴重ニ遵守シ居レリ

二、日本帝國政府ハ俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年ノ國際條約ヲ批准セズ從ツテ何等同條約ノ拘束ヲ受ケザル次第ナルモ日本ノ權内ニアル「アメリカ」人タル俘虜ニ對シテハ同條約ノ規定ヲ準用スベシ

本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

昭和十七年一月二十九日

外務大臣 東郷 茂德

瑞西國特命全權公使

「カミーユ、ゴルジュ」閣下

(付記一)

條三普通第五號

以書翰啓上致候陳者本月十九日附拙信(條三普通第一號)ニ關シ俘虜ノ待遇ニ關シ日本帝國政府ノ見解左ノ通陳述致候條右可然「イギリス」、「カナダ」、「オーストラリヤ」及

「ニュージーランド」各政府ニ御傳達相成度此段御依頼申上候

一、日本帝國政府ハ俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年ノ國際條約ヲ批准シ居ラズ從ツテ何等同條約ノ拘束ヲ受ケザル次第ナルモ日本ノ權内ニアル「イギリス」人、「カナダ」人、「オーストラリヤ」人及「ニュージーランド」人タル俘虜ニ對シテハ同條約ノ規定ヲ準用スベシ

ニ、俘虜ノ被服及食糧ノ補給ニ關シテハ相互條件ノ下ニ俘虜ノ國民的人種の風習ヲ考慮スベシ

本大臣ハ茲ニ貴下ニ對シ敬意ヲ表シ候 敬 具

昭和十七年一月二十九日

外務大臣 東郷 茂德

亞爾然丁共和國臨時代理大使

「エラスト、エメ、ヴィリヤ」貴下

53

昭和17年5月8日

西外務次官より  
木村陸軍次官、沢本海軍次官、  
山崎(巖)内務次官他宛

俘虜及び抑留者の書信取扱いに関する協議依頼について

條三祕合第七六〇號

昭和十七年五月八日

外務次官 西 春彦

陸軍次官 木村 兵太郎殿

海軍次官 澤本 賴雄殿

内務次官 山崎 巖殿

遞信次官 手島 榮殿

鐵道次官 長崎 惣之助殿

拓務次官 植場 鐵三殿

俘虜情報局長官 上村 幹男殿

俘虜及抑留者關係事項協議ノ件

本件ニ關シ今般左記事項協議致度ニ付五月十五日午后二時半當省(條約局第三課)ニ係官御差遣相煩度

一、俘虜及抑留者發受ノ書信ノ「シベリア」經由送達ニ關スル英國政府提案(別紙甲號)(編注)

二、同書信ヲ外交官等交換船ニ積載セントスル英國及ヒ加奈陀政府ヨリノ提案(別紙乙號)

三、赤十字國際委員會ヨリノ左ノ如キ照會ニ對スル回答振  
日本領土及其ノ占領地ニ於ケル敵國人俘虜及抑留者ニ送

付セラレタル救恤品ニ對スル郵稅、關稅及汽車輸送賃等ハ免除セラルルヤ

本信送付先 陸軍、海軍、内務、遞信、鐵道、拓務各

次官、俘虜情報局長官

(別紙甲號)

俘虜及抑留者發受ノ書信ノ「シベリア」經由送達ニ關スル英國政府提案

前略

英國政府ハ日本國政府カ相互主義ノ基礎ニ於テ日本國及日本占領地域ニ於ケル英國人俘虜竝ニ抑留者發受ノ書信及英國軍ニ收容セラレ居ル日本人俘虜及英國人ノ權内ニ在ル日本人抑留者發受ノ書信ノ蘇聯邦經由送達ノ爲ノ業務設置ニ協力スルノ意嚮アリヤ否ヤニ付テノ情報ヲ要請ス  
本件業務ハ萬國郵便條約第四十九條所定ノ條件及俘虜ノ待遇ニ關スル壽府條約ノ條件ニ從ヒ遂行セラルベキモノナリ  
蘇聯邦當局ハ國際郵便規則ニ從ヒ書信送達ニ完全ニ協力スルノ用意アルモ本經路ニ依ル小包ノ送達ハ出來サル旨指摘セリ

俘虜ニ關スル「ザンテイ」情報局 (The Xanthi Bureau of Information) ノ發受又ハ仲介スル書信モ亦本業務ニ含マルルモノトス

日本當局ハ抑留者及俘虜ノ居住スル收容所宛名ヲ發表スル迄右收容所ニ書信ヲ轉送スル爲日本國ニ於ケル情報局ノ宛名ヲ通報セラレタシ

日本國政府カ右ヲ希望セラルルニ於テハ英國當局ノ設置セル「ザンテイ」情報局ノ宛名ヲ通報致スヘシ

(別紙乙號)

俘虜及抑留者發受ノ書信ヲ外交官等交換船ニ積載セン  
トスル英國及加奈陀政府ヨリノ提案

英國政府及加奈陀政府ハ近ク英人官吏及私人ヲ乗セテ「ロレンソ・マルケス」向ケ日本出帆ノ外交官交換船ニ依リ一九二九年俘虜條約第三十六條所定ノ第一回ノ郵便葉書竝ニ日本及日本占領地域内ニ在ル英人俘虜及抑留者ノ書信ヲ送付スル事ヲ相互主義ニ基キ許可スル意嚮アリヤ否ヤヲ承知致度シ

尙前記兩國政府ハ帝國政府カ前記提案ニ同意スル場合右同

意ノ趣ヲ速ニ回答セラルルニ於テハ前記外交官交換船カ日本人タル俘虜及抑留者ノ發セル書信ヲ「ロレンソ、マルケス」ニテ受取り得ル様措置スルノ用意アリ

編 注 別紙甲号は昭和十七年三月二日付、同乙号は四月二十

五日付をもつて英國政府より在本邦アルゼンチン大使を通じて申越したものである。

~~~~~

54 昭和17年5月27日

西外務次官より
木村陸軍次官、沢本海軍次官、
山崎内務次官他宛

俘虜及び抑留者の書信取扱い事務開始につき

各国政府への回答振り通報

條三普通合第八六六號

昭和十七年五月二十七日

外務次官 西 春彦

陸軍次官 木村 兵太郎殿

海軍次官 澤本 頼雄殿

内務次官 山崎 巖殿

遞信次官 手島 榮殿

四 俘虜・抑留者取扱方針

拓務次官 植場 鐵三殿

鐵道次官 長崎 惣之助殿

俘虜情報局長官 上村 幹男殿

俘虜及抑留者ノ書信交換ニ關スル件

本件ニ關シ帝國政府ヨリ英國及加奈陀政府並米國、濠洲、新西蘭、南阿聯邦及印度ノ各政府ニ對シ夫々在京「アルゼンティン」代理大使及同瑞西公使ヲ通ジ別紙寫ノ通り回答致置キタルニ付右御參考迄茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍、海軍、内務、遞信、拓務、鐵道各次

官、俘虜情報局長官

(別紙一)

條三普通第三六號

以書翰啓上致候陳者俘虜及抑留者ノ發受スル書信ニ關シ四月二十日附 G. No. 47 同二十五日附 G. No. 47 同三十日附 G. No. 49 ヲ以テ英國及「カナダ」政府ノ申出御通報相成敬承致候帝國政府ハ本件ニ關シ左ノ通決定セルニ付右關係諸政府ニ御傳達相煩度候

「帝國政府ハ五月十五日ヨリ我方權内ニアル英國人及自治

領人、殖民地人タル俘虜及抑留者ノ發受スル書信取扱事務

ヲ開始スルニ決定シ第一回分ヲ近ク本邦ヨリ出發スヘキ外交官交換船ニテ「ロレンソ・マルケス」迄運搬スル様既ニ必要ナル措置ヲ講シタルカ右以外ノモノハ「シベリア」經由ニテ遞送スヘシ本件事務ハ不取敢内地、外地、上海及香港ノ俘虜及抑留者ニ付實施シ順次他地域ニ在ルモノニ及ホス計畫ナリ

仍テ帝國政府ハ英、加兩國政府カ日本人タル俘虜及抑留者ニ對シ同様ノ措置ヲ執ランコトヲ期待スルモノナリ」

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和十七年五月二十日

外務大臣 東郷 茂徳

亞爾然丁共和國臨時代理大使

「エラスト、エメ、ヴィリヤ」貴下

(別紙二)

條三普通第二〇二號

以書翰啓上致候陳者帝國政府ハ俘虜及抑留者ノ書信ニ關シ

左ノ通決定致候ニ付米國、濠洲、新西蘭、南阿聯邦及印度ノ諸政府ニ御通報相成右諸政府ノ本件ニ關スル措置御回報相煩度尙英加兩政府ニ對シテハ在京亞爾然丁國大使館ヲ通シ依頼濟ミニ有之候

「帝國政府ハ五月十五日ヨリ我方權内ニ在ル俘虜及被抑留者ノ發受スル書信取扱事務ヲ開始スルニ決定シ第一回分ハ近ク本邦ヨリ出發スヘキ外交官交換船ニテ「ロレンソ、マルケス」迄運送スル様既ニ必要ナル措置ヲ講シタルカ右以外ノモノハ「シベリア」經由ニテ遞送スヘシ本件事務ハ先ツ内地、外地、上海及香港ノ俘虜及抑留者ニ付實施シ順次他地域ニ在ルモノニ及ホス計畫ナリ帝國政府ハ米國、濠洲、新西蘭、南阿聯邦及印度ノ諸政府カ日本人タル俘虜及抑留者ニ對シ右ト同様ノ措置ヲ執ルヘキコトヲ期待ス」

本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

昭和十七年五月二十日

外務大臣 東郷 茂徳

瑞西國特命全權公使

「カミーユ、ゴルジェ」閣下

55

昭和17年10月6日

西外務次官より
長崎(惣之助)鐵道次官宛

抑留者宛救恤品分配に關する赤十字國際委員會及び各國政府への通報要領について

付 記 作成日、作成局課不明

「赤十字船派遣ニ關スル英米トノ交渉經過」

條三普通第八三號

昭和十七年十月六日

外務次官 西 春彦

鐵道次官 長崎 惣之助殿

交戰國ニ於ケル抑留者ニ對スル千九百二十九年俘虜條

約準用問題ニ關スル件

本件ニ關シ敵國側ヨリ爲セル提議及我方回答振ハ五月十四日付往信條三普通合第八〇五號ヲ以テ申進置キタル處敵國政府ノ俘虜條約準用ニ關スル帝國政府宛回答及交戰國ノ抑留者宛救恤品ノ輸送配布ニ關スル赤十字國際委員會及敵國政府ノ通報要領左記ノ通りニ付委細右ニテ御承知相成度シ

記

「米國政府ハ三月二十四日付ヲ以テ在京瑞西國公使ヲ通ジ

帝國政府ノ條約準用ニ關スル回答ヲ了承スル旨通報越セリ其他ノ敵國政府ハ米國ノ如キ回報ヲ爲シ來ラザリシモ本來先方ヨリ本件條約準用ヲ提議シ來リタル次第ナルヲ以テ我方回答ニテ本件ニ關スル合意成立セルモノト認メラル

二、前記條約ノ準用ニ關シ抑留者ニ對スル救恤品ノ輸送分配ニ付テハ在壽府赤十字國際委員會ハ五月三十日附ヲ以テ日本赤十字社ヨリ在外邦人抑留者宛ノ慰問品綠茶ヲ在英米等各國ノ同委員會代表ヲ通ジ抑留邦人數ニ應ジ各國ニ分割シ送達配布方ヲ受諾スル旨ヲ通報シ來レリ

尙英米兩國政府モ本件綠茶ノ抑留邦人ヘノ分配ヲ受諾スル旨利益代表國ヲ通ジ申越シ居レリ

(付記)

赤十字船派遣ニ關スル英米トノ交渉經過

一、曩ニ英國政府ハ我方ニ對シ利益代表國タル亞國政府ヲ通シ二月十四日附ヲ以テ香港ニ於ケル英人俘虜カ虐待セラレツツアルコトヲ指摘スルト共ニ俘虜ニ對シ救恤品ヲ送付スル爲「シドニー」ヨリ赤十字船ヲ派遣シ度キ旨申入

レ來リタルカ右ニ對シ我方ハ四月下旬亞國代理大使ニ次官ヨリ口頭ヲ以テ西南太平洋ニ於ケル交戰狀態ニ鑑ミ歟クトモ當分ノ間ハ此ノ種船舶ノ同方面ノ通過ハ之ヲ考慮スルコトヲ得サル旨答ヘ更ニ五月二日在亞富井大使ニ右趣旨申入方訓令セリ

二、一方米國赤十字社ハ四月十五日附電報ヲ以テ壽府赤十字國際委員會ヲ通シ日本赤十字社ニ對シ我方權内ニ在ル米人俘虜及抑留者ニ救恤ノ爲衣服及日用品ヲ中立國船ニ依リ前記委員會監督ノ下ニ送付シ度キヲ以テ日本政府ノ許可取付斡旋方依頼シ來レルト共ニ壽府赤十字國際委員會ヨリモ五月二十九日在瑞西德永代理公使ヲ通シ米國赤十字社ノ右提議ニ對シ許可ヲ與ヘラレ度旨我方ニ申入レ來レリ

米國赤十字社ハ更ニ六月四日附ヲ以テ瑞典船「ヴァサランド」號ヲ東亞ニ於ケル俘虜宛救恤品運搬用トシテ傭船シ度キ意向ナル旨ヲ申越スト共ニ同船ノ寄港地、歸港ニ際シテノ我方托送品等ニ付提議シ來レリ

右ニ對シ我方ハ關係各省ニ於テ協議ノ結果中立港ヘノ廻航ナラハ航海ノ安全ハ保障シ差支ヘナキモ(曩ニ英二拒

否シタ關係上今米ニ許與スルハ政策上矛盾アルコト(二)我方ニ該赤十字船ノ歸航ニ際シ托送スヘキ救恤品ナキコト等ノ理由ニヨリ本件ハ一應拒否スルニ決定シ居リタルモ之ヲ通告スルニ至ラサリシ處米赤十字社ハ本件ヲ飽迄固執シ壽府國際委員會及日本赤十字社ヲ通シ許可方督促スルト共ニ六月下旬備船候補「ヴァサランド」號ノ標識ヲ通告シ來リ越エテ七月十四日米赤十字社長ヨリ壽府赤十字國際委員會ヲ經テ本件至急解決方要望シ來レリ

依テ我方ハ八月三日附ヲ以テ米國赤十字社ヘ傳達ノ目的ヲ以テ赤十字國際委員會代表ニ對シ曩ニ英國政府ヨリ赤十字船派遣方提議アリタルニ對シ日本政府ハ太平洋ニ於ケル交戰狀態ニ鑑ミ尠クトモ當分ノ間ハ該船舶ニ對スル航行安全ヲ保證スルコト不可能ナリト答ヘタルカ今尙右方針ヲ變更スル理由ヲ認メサルコト及帝國政府ハ米人俘虜及抑留者ニ對シテハ國際法ノ原則ニ基キ最モ公正ナル待遇ヲ與ヘ居ルヲ以テ彼等ニ對シ特別ノ救恤ヲ要スルモノト認メサルモ米國赤十字社力若干ノ救恤ヲ要望スルコトニ對シ強テ反對スルモノニアラサルニ付將來實現セラルヘキ第二次交換船利用ニ依ル救恤品ノ送付ニ付テハ異

議ナキ旨ノ回答ヲ爲セリ

三、昭和十七年五月第一回日米交換船ニ依リ日本赤十字社ハ米英方面ニ抑留セラレ居ル邦人ニ對シ慰問品トシテ綠茶一萬斤ヲ送付シ之カ配布方ヲ在米赤十字國際委員會代表ニ委囑セリ

四、他方英米側ハ第一回日米及日英交換船ニ依リ我方權内英米俘虜及抑留者宛貨物「萬數千噸ヲ「ロレンソマルケス」ニ輸送シ來リ而シテ我方ニ對シ之ヲ我方交換船ニ積載輸送セムコトヲ申出テ來リタルヲ以テ我方ハ左ノ通り輸送シ之ヲ俘虜等ニ配布シタリ
イ、日米交換船淺間丸積載ノモノ

昭南港陸揚ノモノ一四二噸

橫濱陸揚ノモノ六一八噸

ロ、日英交換船龍田丸ハ國際赤十字社ノ依頼ニヨル英國俘虜宛救恤品總計約千七百重量噸ヲ「ロレンソマルケス」港ニテ搭載シ之ヲ昭南港ニテ皇軍ニ引渡セリ
ハ、鎌倉丸ハ「ロレンソマルケス」ヨリ約二〇〇〇噸ノ救恤品ヲ積載シ來リ之ヲ香港ニ陸揚シ皇軍ニ引渡シタリ

ニ、赤十字國際委員會ヨリノ情報ニ依レハ尙「ロレンソマルケス」港ニハ現在三千五百噸ノ救恤品殘留シアリ、又十二月十日附電報ヲ以テ英、米、加、南阿、ノ各國赤十字社ヨリ我方權内ノ俘虜等ニ對シ第二次日米交換船實現ノ場合ニハ約二千噸ノ救恤品ヲ送付シタキ計畫ナル旨ヲ通報シ來レリ

五、在壽府赤十字國際委員會ヨリハ引續キ在本邦同委員會代表ヲ通シ米國赤十字社ノ赤十字船ニ依ル救恤品輸送許可ニ關スル要請ヲ申入レ來リタルカ十一月十三日附書翰ヲ以テ「ロレンソマルケス」經由ニテ船舶ノ派遣ヲ希望シ居リ若シ日本側ニテ希望セハ同港ヨリ日本向日本人船員ヲ乗組マシムルコトヲモ考慮シ得ル旨ヲ通報シ來レリ、尙十月二十七日附ノ來翰ニ依レハ赤十字國際委員會ハ救恤品ノ海上輸送ノ新方法トシテ「ロレンソマルケス」經由米國及日本ノ運輸路ヲ示唆シタキ處日本政府トシテ他ノ經路ヲ選ハルルモ勿論其ノ自由ナルト共ニ右海上輸送ノ渡米ノ都合ハ日本ニ在ル瑞西人代表ヲ乗船セシメタル日本船ニ依リ行ハルルコトヲ提議シタシト通報越セリ、米國政府ハ瑞西國政府ヲ通シ昭和十七年十二月二十八日

附ヲ以テ左ノ趣旨ノ申入ヲ爲シタリ

米國政府ハ俘虜等カ壽府條約ニ依リ享クヘキ一般諸特典ノ外郵便物及食糧被服入りノ小包ノ送達ヲ受クヘキ特典ヲ有シ居ルヲ以テ關係國ハ之カ輸送ニ對シ特別ノ措置ヲ講スル要アリ但之カ輸送ヲ交換船ニノミ依ル場合其ノ收容力ノ制限及送達ノ遲延等ノ爲所期ノ目的ヲ達スルニ充分ナラス故ニ他ニ何等カノ繼續ノ方法ヲ攻究スル要アルヘシ

帝國政府ハ曩ニ米國政府ノ中立國船ニ依ル此ノ種救恤品ノ輸送ニ關スル提議ニ對シ「差當リ」作戰上ノ理由ニ依リ如何ナル船舶ノ西太平洋ノ航行ヲモ許容シ得サル旨回答セラレタルカ時日ノ經過ニ伴ヒ當時日本政府ノ當面セル航行上ノ障害既ニ消滅シ中立國船ノ航海ニ對シ安導券ヲ與ヘラルルニ同意セラレムコトヲ希望ス、若シ日本政府ニシテ今尙右中立國船ノ往復ニ對スル安導券發給ニ關シ躊躇セラルルニ於テハ米國政府ハ日本政府自身兩國カ各其抑留スル相手國々民ニ對スル郵便及小包配達ノ義務ヲ夫々履行シ得ルカ如キ他ノ適當ナル方法ヲ提議セラルルコトヲ要望ス云々

56 昭和17年11月14日

在敵国邦人及び在本邦敵国人事務取扱いのための機構設置に関する決定

付記一 昭和十七年十一月十六日付、条約局第二課作成

「戦時抑留者事務ニ關スル件」

二 昭和十九年十一月二十一日付、在敵国居留民関

係事務室作成

「外務省在敵国居留民關係事務室ヲ官制ニ依ル

強力ナル機關トスルコトヲ必要トスル理由」

三 作成日、作成局課不明

「俘虜業務ノ系統及任務ノ概要」

高裁案 昭和十七年十一月十二日起案

昭和十七年十一月十四日決裁

件名 在敵国邦人及我方在住敵国人關係事務部(假稱)

設置ニ關スル件

今次大東亞戰爭ニ於テ外務省トシテハ在敵国抑留邦人ノ保護ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ我權内ニ在ル敵國人ヲ公正ニ取扱ヒ帝國ノ道義ヲ世界ニ知ラシムルノ要アル處在敵国抑

留本邦人ノ取扱ヒト帝國ノ權内ニ在ル敵國人ノ取扱ヒトハ密接不可分ノ關係ニアルヲ以テ現在各局課ニテ處理シ居ル右取扱關係事務ハ之ヲ統一シ綜合的見地ヨリ處理スルノ要アリ仍テ別紙ノ通次官直屬ノ臨時機關トシテ主トシテ歸朝外交官ヲ以テ構成スル新事務部ヲ設置シ之ヲシテ右事務ノ處理ニ當ラシムルコトト致度

右仰高裁

別紙

第一、新事務部ニ於テ處理スヘキ事務(關係局課ト充分連絡

スルモノトス)

(一) 敵國ニ於テ俘虜、抑留者又ハ集團生活者トナリ居ル邦人ノ狀況ノ調査及改善ニ關スル事務

利益代表國、赤十字國際委員會、交換歸朝者又ハ法王廳ヲシテ其ノ狀況ヲ報告セシメ其ノ待遇ノ不良ノ點ニ付適當ノ機關ヲ通シ改善ヲ要求シ抗議ヲ提出シ又ハ政府、日本赤十字社、海外同胞協會等ヨリ救恤金、救恤品ヲ送付シ其ノ狀態ノ改善ヲ計ル
前記邦人(俘虜ヲ除ク)ノ居所安否ヲ調査シ名簿ヲ作成

シ新聞又ハ官報ニ之ヲ公表シ又ハ本邦ニ在ル家族トノ通信ヲ行ハシム

(二) 敵國トノ居留民交換事務

(三) 帝國ノ權内ニ在ル俘虜、抑留者又ハ集團生活者トナリ居ル敵國人關係事務

右敵國人ノ待遇(衣食住、安否問合、「リスト」ノ通報、利益代表國、赤十字國際委員會代表ノ設置及其ノ訪問、通信、救恤、勞働、處罰、送還等)ニ關スル事務ヲ行フ

右事務ハ敵國其ノ他ヨリノ申出ニ對シ應酬スル事務ヲ含ム

(四) 前記事務ノ實施ニ關シ利益代表國、赤十字國際委員會及法王廳トノ交渉及指導、國內及國外ノ救恤團體ノ指導

(五) 抑留非戦闘員事務連絡協議會關係事務

(六) 敵國ニアル抑留又ハ集團生活セシメラレ居ラサル邦人及斷交國ニアル邦人ノ保護ハ政務局ニ於テ之ヲ行フモ本事務部ト充分連絡ス

第三、新事務部ノ構成人員

不取敢左ノ人員ヲ以テス

公使級	一名
總領事級	一名
領事級	二名
副領事級	三名
判任官	五名
囑託	五名
雇員	五名
傭人	八人

(付記一)

戰時抑留者事務ニ關スル件

(昭一七、一一、一六 條二)

外務省ニ於テハ今般前埃及駐劄鈴木公使以下敵國ヨリ歸朝セル待命外交官領事官ヲシテ次ノ事務ニ當ラシメルコトトナツタ

一、敵國ニ於テ抑留サレ又ハ集團生活ヲセシメラレテ居ル本邦人ノ狀況ノ調査及其ノ狀態ノ改善ノ爲ノ事務
二、敵國トノ居留民交換事務

三、日本ノ權内ニアル敵國人關係事務

一、ハ現在敵國トノ交通ハ外交官及居留民交換ノ際ノ外ハ行ハレナイノテ利益代表國赤十字國際委員會等ノ機關ヲ通シ敵國ニ於テ抑留サレ又ハ集團生活ヲセシメラレテキル本邦人ノ衣食住、衛生、勞働、處罰、母國トノ通信等ノ狀況ヲ取調ヘ其ノ名簿ヲ入手シ利益代表國及赤十字國際委員會ノ代表ノ訪問報告其ノ他ノ情報ヲ蒐集シ其ノ狀況ニ不良ノ點ガアレバ直ニ適當ノ機關ヲ通ジテ改善ノ方法ヲ講ジ又ハ其ノ救恤ヲ計ルモノデアル

二、ハ今迄行ハレタ日米日英ノ外交官及居留民ノ交換ヲ今後又實施スル際其ノ衝ニ當ルモノデアル

三、ハ日本ノ權内ニアル敵國人ニ關シ大体ハト同様ナ待遇ノ諸問題ニ關シ敵國其ノ他ノ機關ヨリ申出ノアツタ時之ニ應酬スル事務デアル尙敵國ニアル本邦人ノ財産保護ノ問題ハ從來通り外務省通商局デ主管シ又日本ニアル敵國人ノ財産ノ處理問題モ從來通り大藏省デ主管シ各省カラノ關係官ヲ集メタ敵產管理委員會デ處理スルコトニナツテキル

右ノ發表ハ外務當局談等トセズ新聞ヲシテ自發的ニ書カシメ又臨時調査委員會ニ關スル發表ト同時ニ行ハルベキモノ

トス

(付記二)

一九、一一、二一

外務省在敵國居留民關係事務室ヲ官制ニ依リ強力ナル機關トスルコトヲ必要トスル理由

帝國ト干戈ヲ交ヘ若クハ國交ヲ斷絶シタル所謂敵性國ハ實ニ數十ヶ國ニ上リ五十七萬ニ上ル邦人、其ノ資産及帝國ノ權益ハ盡ク之等敵性國ノ權内ニ陷リタルガ右殘留邦人及資産、權益保護ノ爲帝國政府トシテハ現下複雑、困難ナル國際政局ニ對處シ凡ラユル努力ヲ以テ萬全ノ措置ヲ講ゼザルベカラズ

抑々敵性國殘留邦人ハ大東亞戰爭開始前ノ國策ノ線ニ添ヒテ海外ニ赴キ帝國海外平和發展ノ第一線ニ活躍シタルモノニテ戰爭勃發ト共ニ產ヲ失ヒ家族離散シ忍苦ノ生活ヲ爲シ居ルモノニテ政府トシテ之カ保護慰問ヲ爲スヘキ義務アルノミナラズ戰後之等殘留民ガ直チニ海外活動ニ挺身シ得ベキ次第ナリ此等殘留民ノ保護ニ關シテハ上ハ畏クモ皇室ノ御軫念御深シト漏レ承ハルコト恐懼ノ至リナルガ敵手ニ陷

リタル五十七萬同胞ノ家族、知人ハ夙夜憂慮シ一般國民モ亦多大ノ關心ヲ有スル所ニシテ右ハ帝國議會開會毎ニ議員ノ頻繁ナル質疑、殘留邦人ニ對スル激勵ノ決議或ハ民間ノ國民大會乃至講演會、義捐金募集等トナリテ現ハレ居レリ。又敵性國ニ殘存スル我權益及殘留邦人ノ資産ハ莫大ナルモノアリ右資産中ニハ開戦以來或ハ押收、賣却セラレタルモノアリ或ハ其ノ事業ガ清算セラレタルモノアリ之ガ調査及保護ニハ多大ノ困難ヲ伴フモ問題ハ殘留邦人五十七萬ノ休戚ニ關スルモノニシテ戰爭終了ノ際ノ施策ノ爲ニモ善處ヲ期スルコト緊要ナリ

他方我權内ニ入りタル敵性國人數ハ約二十七萬ニシテ、其ノ内約十五萬ハ俘虜十二萬ハ非戰鬪員ナリ。而シテ之カ待遇振ニ關シ帝國政府ハ俘虜ニ關シテハ一九二九年ノ俘虜待遇ニ關スル壽府條約ヲ準用シ又一般非戰鬪員抑留者ニ付テハ相互主義ニテ同條約ヲ準用スヘキコトヲ聲明シ之ガ公正ナル待遇ヲ期シ居レリ。然レトモ敵性國ハ動モスレバ我方ノ與フル待遇等ニ關シ殊更ニ捏造誹謗ヲ加ヘテ謀略の宣傳ヲ行ヒ以テ之ヲ自國ノ戰意昂揚、戰力増強將又國內政治運動等ニ利用シ且ツ中立國ニ於ケル帝國ノ聲望ヲ失墜セシメ

ムトナシ居ル狀況ナルガ斯カル陋猥ナル敵ノ奸策ヲ封スル爲ニモ將又敵性國人ノ待遇ガ敵性國殘留邦人ノ取扱ニ直ニ影響スルモノナルニモ顧ミ帝國官憲ノ敵國人取扱ハ公正安當苟モ戰爭ニ藉口シテ人道ヲ無視スベキニアラズ故ニ政府トシテハ所謂武士道の道義感念ヲ中外ニ顯示シ敵ノ戰意ヲ破碎シ其ノ中立陣營切崩シノ迷惑ヲ覆ヘスト共ニ戰後ニ於ケル我同胞ノ海外發展ニ資スル所ナカルベカラズ

帝國政府ガ船腹確保ニ多大ノ困難アル際ニ拘ハラズ又作戰上ノ支障ヲ枉ゲテ數回ニ互リ殘留民ノ相互交換ヲ實施シ、敵側ノ救恤品大量ノ輸送配布ヲ承諾シ、俘虜、抑留者等ノ通信ノ便宜ヲ計リ、敵性國政府ヨリノ多額ノ救恤金ヲ我權内ノ敵性國人ニ交付スルコトヲ許可シ將又目下ノ交通狀態其他種々ノ事情アルニ拘ハラズ敵ノ利益代表、法王廳使節、赤十字國際委員會代表ノ俘虜收容所、非戰鬪員抑留所等ノ訪問ヲ努メテ許可シ居ルハ前述ノ趣旨ニ依リ帝國ノ公正ナル態度ヲ示サムトスルモノニシテ又之ニ依リ敵ノ權内陷リ居ル多數邦人ノ待遇ヲ惡化セシメサラムトスルモノナリ。而シテ敵性國殘留邦人及資産等ノ保護及其他前記各事項ノ處理ハ數十ノ敵性國ニ於ケル我利益ヲ代表スル中立國代表

者ノ活動及法王廳使節、赤十字國際委員會代表ノ好意的斡旋ニ依ルモノナリ(最近ハ蘇聯邦モ其ノ國際政局ニ於ケル特殊ナル地位ニ顧リミ其ノ領土通過ニ依ル在留民ノ交換、救恤品ノ輸送等ノ問題ニ就キ介在スルニ至ル)。敵性國モ亦我邦ニ於ケル其利益ノ代表者タル中立國及法王廳、赤十字國際委員會等ヲ通ジテ我方ト接觸シ我權内ニ在ル其國民及資産ノ保護ヲ全ウセムトシ居レリ。從テ相互ノ國民及資産ノ各相手敵性國ノ權内ニ在ルモノヲ前記中立國乃至中立機關ヲ通ジテ保護セムトスルモノニテ茲ニ複雜微妙ナル國際外交ヲ生ジ之ニ依リ中立國トノ特殊ナル交涉關係ヲ生ジ又之ニ依リ敵性國トノ間接ナル交涉關係維持サレ中立國及敵國ノ動向ヲ察知スルヲ得ル次第ニテ同時ニ我交渉態度ハ慎重ヲ要スルモノアリ。尙茲ニ一言シ度キハ帝國ハ全世界ニ跨ル大戰爭ヲ遂行中ニモアリ中立國及樞軸國ヲ相手トスル交易ガ殆ド行ハレザルコトニシテ現在ニ於テハ戰爭遂行上欠クベカラザル物資購入及在外公館及在外邦人ノ費用ニ充ツル爲ノ外貨資金ハ之ヲ求ムルニ困難アリシ處客年以來苦心ノ末敵側ノ我國ニ於テ費ス利益代表費及救恤金ノ送金方法ヲ調整スルコトニ依リ外貨獲得ヲ策シ得タルト共ニ敵

性國ニ殘置シタル我方資金ノ利用方努力中ナリ。帝國カ敵性國ニ於テ費ス利益代表費及救恤金ガ年額五百萬圓ナルニ反シ敵性國ノ我方ニテ費ス分ハ約八千萬圓ニ達スベシト見積ラル。要之以上諸事項ニ關スル事務ハ政治、外交、宣傳、財政、經濟、交通ノ各般ニ互ル多岐性ヲ有シ而モ其ノ事務各々が緊密ナル關聯性ヲ有スルモノニシテ(例ヘバ殘留邦人ノ保護ト敵國人ノ取扱ハ不可分ノ關係ニアリ綜合對比的見地ヨリ處理ヲ要スルガ如キ)又在留民ノ交換、救恤品ノ輸送等ノ如キハ未ダ前例ヲ見ザル今次大戰ニ於ケル特異ナル事務ト云フベク戰爭完遂ハ元ヨリ戰後經營ノ觀點ヨリモ重要性ヲ有スルモノニシテ恐多クモ上皇室ノ御軫念ニ應ヘ奉リ下國民一般ノ期待ニ副ハムカ爲又國內關係諸官廳トノ交渉事務ヲ圓滑ナラシムル爲ニモ尙中立國及中立機關トノ交渉機能ヲ全カラシムル爲ニモ將又本件事務ヲ重視シ之ガ處理ニ萬全ヲ期スルコトヲ中外ニ明カニスル爲ニモ此ノ際官制ニ依ル強力ナル機關ヲ設置スルコト緊要ナリト信ズ。

俘虜業務ノ系統及任務ノ概要

- 凡例
1. 隸屬指揮系統
 2. 連絡通報照會系統

